

日本医師アマチュア無線連盟会報

No.76

第40回 MARS 総会福島大会開催報告

MARS 会長 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

第 40 回 MARS 総会は福島において 2016 年 4 月 23 日(土)高瀬信弥大会会長の下に福島市のホテル The Celecton 福島にて盛大に開催されましたことをご報告申し上げます。

昨年の京都総会では 8J3M/3 の特別局運用等の余韻の中で、福島大会の開催が急拠浮上して福島の様ざまな課題を自分のこととして捉えることが必要であるとの意見が多数を占めて、高瀬信弥先生にご尽力をお願いすることになりました。

高瀬信弥先生 JP7FSO 局は着実なご準備を周到に重ねられて、総会開催前に立派な MARS 福島総会の HP を作り、その広報活動も熱心になされました。また MARS クラブ局 JM1ZZM/7 の運用を総会に先立ち実施して頂きました。総会準備もスムーズな準備を頂きお陰様で大変有意義な MARS 総会になったと思います。

第 40 回 MARS 総会は JH7QFA 渡辺孝志先生の司会進行の下に進められ、司会の開会宣言のあと MARS 総会福島大会長高瀬信弥先生の挨拶から始められました。ついで MARS 会長及川忠人が MARS 福島総会開催

への感謝の言葉を述べて、恒例の Silent Key になられた JA7FHH 故芦名孝道先生および JE7EDF 故佐々木盛徳先生両名へのモース発信が JA3ASU 狭山信矩先生の打電により厳粛に行われました。

総会議長は JH2QBQ 丸山暢(愛知県)先生が選出された。議事はまず JL1BGP 井上文正先生の平成 27 年度庶務報告等で開始されました。現在の会員数等の諸報告の他に、平成 27 年度 MARS 会計報告がなされ、御欠席の会計監事の JA1FF 国府田守雄先生に代わって MARS 会長の及川が監事の代行を行い、会計の適正に行われていることを確認して総会に因ってご了承を得た次第でありました。

次いで平成 27 年度事業(活動)報告がなされました。まず MD ネットの一年間の活動状況が 3.5MHZ のネットを相田信男先生によりなされ 7MHZ のネット活動の概要が JH7QFA 渡辺孝志先生によって報告されました。(別紙)全般的にコンディションが悪い時が多い印象を受けました。

MARSNews 発行については JF3JON 田中憲児先生によって、8J3M 記念局の活動の中

心とした会報の発行がなされ、充実した紙面になったことの御報告がありました。次いで、MARS Award は一局の申請があり、JA1KXT 相田信男先生からなされました。

また昨年の医学会総会記念局の活動概要は詳細な活動報告が JI1VAH 天谷龍夫先生と JH3AEF 東條純一先生からなされ、これまでにない活発な活動となったことが報告され、医学会総会開催年には引き続き特別局運用を継続すべきとの意見が多数を占めて了解を得ることが出来ました。また MARS Home Page の活動については JH3TCC 家田勝幸先生から詳細な報告がなされました。

議事についてはまず平成 28 年事業計画が JA7AOM 及川忠人会長より提出されて計画案が承認された。さらに平成 28 年度予算(別紙案)は JL1BGP 井上文正先生からご提案があり、これも承認された。役員改選(案)が JA7AOM 及川忠人会長より提出されて、これまでの役員に JI1VAH 天谷龍夫先生と JP7FSO 高瀬信弥先生を理事として加える提案について承認を得ることが出来ました。また JA1KXT 相田信男先生からアワード担当の交替についてのご提案があり、アワードならびに様々なネットワークについての担当を JI1VAH 天谷龍夫先生に交替するご提案がなされ、このご提案も承認されました。

そのほかの議事、発言は無く、議長が総会の修了を確認して、JP7FSO 高瀬信弥先生より総会閉会の挨拶があり、総会を閉会になりました。

次いで約 10 分間の休憩時間をとり特別講演を行うことになりました。

演題①“ From 9.11 to 3.11 and Beyond:

(Transfusion) Medicine and Amateur Radio.”

演者： 福島県立医科大学

ふくしま国際医療科学センター

国際医療センター教授

Kenneth E. Nollet 先生

演題②「福島レポート -現場救急医の視点から-」

演者： 福島県立医科大学

放射線災害医療学講座教授

長谷川 有史 先生

お二人の興味深い東日本大震災に関わる素晴らしい御講演でありました。このような機会を企画された高瀬信弥大会長に心からの感謝の言葉を申し上げたいと存じます。共に東日本大震災に際しての様々な体験を通して、しかも国際的なアマチュア無線活動の相違点等にも触れた興味の尽きない内容であり、さらに現地の支援活動の経験からのこれからの福島原発災害を中心とした課題がひしひしと伝わってくる学びの時を与えて頂きました。

次いで懇親会になり、楽しいひと時を過ごすことになりました。沢山の素晴らしい踊りやハワイアンダンス等、ゆったりとした盛りだくさんの素晴らしい懇親会を過ごさせて頂き感謝でありました。

翌日のエクスカージョンは福島県相馬市(海沿い)および飯館村等の被災地への視察旅行となりました。相馬市では被災 3 月 13 日から 4 月 14 日の撤収までの期間 JA7YVG/7 の地元クラブ局の運用支援がクラブ員のサポートを受けながら実施されたことを伺い、敬服の至りで

ありました。またその隣には二か月間に亘り「そうま災害 FM JOYZ2AB-FM」が運用され被災地支援に活動されたとのことでした。これらの活動を JH7DUM 佐藤不二夫氏が丁寧にご説明くださいました。

また相馬市にはブータン国王御夫妻が慰問に訪れたとのこと、その時の記念写真等を頂きました。相馬市は長い歴史と文化を持つ市ですが、被災地復興の建築物が独特の日本式家屋に統一されていることに驚きを感じました。

相馬市の街並は大変な復興の進んだ街並であり、海岸サイドに震災犠牲者の慰霊塔が立派に建築されておりました。帰路南相馬から飯館村を經由して福島市にもどることになりましたが、岩手県では見ることのなかった放射線測定器が多数道端にあり、放射線災害の大変さを痛感することが出来ました。また飯館村をバスで通るときの不気味さは言葉では表しようのない体験でありました。前日の御講演で被災地での

活動をなさった長谷川先生の講演を思い出しながら、福島での被災が放射線災害が加わっていることの特徴が実感として初めて思い知らされるように感じられました。

立派ないちご園で沢山の美味しいいちごを盛岡の自宅にお土産として持ち帰りましたが、被災地における風評による大変さが伝わってくる思いが致しましたが、東日本大震災の東北被災地における福島県の特徴と大きな課題を直に学ぶことが出来たことは、貴重な体験として、これからもこれらの多くに課題に目をとめ続ける責任のあることを痛感した次第でありました。

現地での課題を直接学び、その経験を少しでも生かすためには我々は何をなすべきかという大きな地域の共通の課題に気づかされたことは感謝すべきことであり、重ねて第 40 回 MARS 福島総会の運営にご尽力頂きました全ての方々へ心より御礼申し上げ、まとまりのない、つたない総会報告に替える次第であります。



第40回MARS福島総会 平成28年4月23日 於 ザ・セレクトン福島

MARS 会員都道府県別分類

J A 1 18局

東京都 JA1FF JA1BOW JF1SXY
 JK1AIN JL1BGP JP1HIS
JR9FQO
 神奈川県 JH1IAA JH1BPF JE1TNL
 埼玉県 JR1CDJ JR1JIC JL1LRJ
 茨城県 JI1VAH
 群馬県 JA1KXT JR1SJD
 千葉県 JM1BIX
 栃木県 JO1RTV
 山梨県 なし

J A 2 7局

愛知県 JA2DQH JH2QBQ JR2AXV
JS2BBE
 静岡県 JE2ANG JO2DBR
 岐阜県 JA2MTE
 三重県 なし

J A 3 28局

京都府 JA3ASU JH3SQM JH3SQN
 JR3HFS JR3JJQ JF3BIE
 JF3ITN
 大阪府 JA3BQT JA3LDH JH3AEF
 JF3EKP JF3MTM JL3SIK
 JM3FUW JM3FUW JO3VKD
 滋賀県 JF3PMG
 兵庫県 JA3XED JH3GOB JH3QMF
 JO3RUL
 奈良県 なし
 和歌山県 JH3TCC JF3JON JI3CIN
 JJ3KUL JM3BCQ JN3ASW
 JP3CCC

J A 4 3局

岡山県 JE4EWM(exJA5LDZ)
 広島県 JH4DPL JH4UYB
 鳥取県 なし
 島根県 なし
 山口県 なし

J A 5 3局

香川県 なし
 徳島県 JA5GPJ JA5POS
 愛媛県 なし
 高知県 JH5KAJ
J A 6 6局
 福岡県 JA6BMB JA6RQK JH6IBM
 JE6IUM JG6DAO

大分県 なし

熊本県 なし

宮崎県 なし

鹿児島県 なし

佐賀県 JR6EZJ

長崎県 なし

沖縄県 なし

J A 7 17局

青森県 なし

秋田県 なし

岩手県 JA7AOM JA7PPA JH7IIR
 JH7OLB JH7XGQ

山形県 なし

宮城県 JA7DOR JA7EVM JA7WTH
 JH7CAI JH7EQW JH7QFA
 JR7CAD JP7DMV

福島県 **JA7NME** JE7GFM **JO7XVL**
 JP7FSO

J A 8 1局

JA8JDQ

J A 9 2局

富山県 なし

石川県 JK1QLR

福井県 JE9RWF

J A 0 3局

新潟県 JH0LME JR0NQU JR0QWW
 長野県 なし

赤文字 は新入会局

_____ は他エリアからの移動局

計88局 (2016年12月現在)

第40回 MARS 総会 福島大会

2016年4月23日(土) 午後5時～

JR 福島駅前 ザ・セレクトン福島

大会長 JP7FSO 高瀬 信弥

(福島県立医科大学 心臓血管外科)

開会・司会進行 JH7QFA 渡辺 孝志(宮城県)

MARS 総会福島大会長挨拶 JP7FSO 高瀬 信弥(福島県)

今日は本当にお忙しい中、お出で頂きましてありがとうございます。福島も東日本大震災から5年目で皆さん頑張っておられます。今日と明日、元気な福島を見て、是非楽しんでいただきたいと思います。

会長挨拶 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

本日は御多忙中にもかかわらず、第40回 MARS 福島総会にお集まり頂きましたことを、心から感謝申し上げます。さて今回の MARS 総会は昨年の第39回京都 MARS 総会の後を受けて、あえて MARS 福島総会大会長を JP7FSO 局高瀬信弥先生にお引き受け頂き、周到な準備を重ね、本日に至りましたことを心から感謝申し上げます。

昨年の MARS 総会でも話題になったことで御座いますが、東日本大震災の中で福島県の最も困難な課題は原発問題であることは誰もがご存じのことです。しかし、その被災事実に基づいた課題について必ずしも正面から取り組んできていないとの意見もあり、MARS 会員はこの福島原発問題にさらに注

目して行く必要があると痛感していた矢先でありました。今回の福島 RS 総会では原発問題に踏み込む御講演や東日本大震災被災地の相馬市への視察を加え意義深い MARS 総会となり、ご準備の労をおとり頂いた大会長高瀬先生はじめ福島地区の御支援に係った多くの方々に重ねて感謝申し上げます。

日頃、お空でお会いして交信を楽しんでいる仲間が年に一度こうして一同に会して、共に Eye Ball Meeting を楽しむことが出来ますことは、アマチュア無線家にとって、無上の喜びでもあります。今回の総会は昨年総会後に設置されました第29回日本医学会総会特別記念局 8J3M/3~n の経験も踏まえ、MARS 特別記念局 JM1ZZM 運用を実施することになり、有意義なことであると思います。期せずして本年4月14日に起こった熊本大地震の極めて厳しい災害の報道を如何に受け止めるべきか、突然の直下型大地震の猛威をTV映像等で見ると、東日本大震災から5年目の時期に大きな大災害への課題が再び浮かび上がったように思われます。

我々医師がアマチュア無線家として非常時に成すべきことは電波法令等で限定されますが、Dr.Net 等の通常の無線ネットワーク活動

の在り方について工夫すべきことも多いのではないかと考えております。昨今の日本列島に襲い掛かる大災害の状況を見るときに、福島原発問題を真摯に受け止めて、様々な大災害時の対応について想定外とする視点を超えて吟味検討が必要であることは間違いないことあると思います。

これまでの昨今の諸事情から MARS 会員の日常活動の在り方が問われる時代になっていると痛感するものであり、ネットワークの構築についての新しい検討を行い、若い会員をさらに加入する方向に進めることが大切であると考えております。また災害時の非常無線における初動機の役割の重要性はとみに増し加わっていると思われま。

今回の第 40 回 MARS 総会から現地 MARS 総会大会長を高瀬信弥先生に依頼することに致しまして活動的に有意義な MARS 総会の準備に御尽力頂いたことを、とても有難く思っております。総会準備の陣頭に立たれた高瀬信弥先生ならびに陰に日向にお支え頂きました地元福島の関係者の多くの方々に併せて重ねて感謝申し上げ、第 40 回 MARS 総会の開会の会長挨拶に替える次第であります。本日はまことにありがとう御座いました。

議長選出 JH2QBQ 丸山 暢 氏(愛知県)
を選出

報告事項

平成27年度庶務報告 JL1BGP 井上 文正 (東京都)

MARS 会員(会員数92局)の動静について、昨年新しい MARS 局名録を中心に各

エリア別に局数の報告ならびに新入会局の報告がなされた。

平成27年度事業報告

MD ネット 3.5M JA1KXT 相田信男(群馬県)

毎週水曜日 0600～0630JST(資料1)、0540にはJI1VAHとJA1KXTとで始めています。3.565MHz (QRM の場合は 3.568 に QSY、以後 3KHz 毎に up の方針)。出れば全国 QSO がほぼ可能。是非ご参加を!

MD ネット 7M JH7QFA 渡辺孝志

毎週水曜日 0630～0700JST(資料2) 7.150MHz 付近(以前の 7.062～7.065MHz は QRM が激しく、平成27年10月7日より QSYしました)。

MARS NEWS JF3JON 田中憲児(和歌山県)

平成27年10月1日に、第29回日本医学会総会 2015 関西 記念局 8J3M の活動報告と、第39回 MARS 京都総会を特集して No.75 を発行した。アマチュア無線に限らず、様々なジャンルのご投稿をお願い申し上げます。

MARS HOME PAGE JH3TCC 家田勝幸(和歌山県)

第 29 回日本医学会総会記念局 8J3M/3 の運用について HP 上にアピールした。1日平均 40～70 回の訪問実績があった。

なお、メーリングリストへのメールアドレスの登録は、転送専用となっている@jarl.com では登録できませんので、@jarl.com 以外のアドレスを管理者 JH3TCC までご連絡ください。

MARS AWARD JA1KXT 相田信男**1) MARS 医学 アワード 発行状況**

次の局から申請あり、発行した。このまま年間賞受賞局。

No.182 JF2ILU 峯田孝司殿 (classB, all 7MHz SSB) 2014.12.31.発行

2) MARS 医学 アワード II 発行状況

次の局から申請あり、発行した。

No.A-5 JH1KMC 尾内保之殿 (all CW) 2015.9.25.発行

No.A-6 JH4GXE 木山達三殿 (all SSB) 2015.12.15.発行

No.A-7 JO3RUL 田畑知己殿 【233pts. ステッカー 4 枚】2016.3.28.発行

3) MARS 医学 アワード 会計

収入の部	前年度からの繰越	1731円
	MARS AWD 申請料	800円
	合計(A)	2531円
支出の部	AWD 送料	560円
	合計(B)	560円

* A-B=1971円 ⇒ 次年度に繰り越し

* 年間賞トランシーバー購入費は、本会計から支払われる。

4) 付記、問題提起

・CQ 出版社刊「アマチュア無線アワードハント・ガイド」p102 に、MARS 医学アワード II についての紹介記事を載せてもらった。

・ももとの「MARS 医学アワード」には申請料 800 円を請求してきた。

その後新設の「MARS 医学アワード II」では、時代的な流れを鑑みて、申請料も GCR も不要とした。これまで AWD やステッカーの印刷代は本部会計からまかなっていただいていたが、「AWD-II」の発行費用は、「AWD」申請料の“貯金”から補ってきた。今年度のよう

に「AWD-II」の発行部数が「AWD」のそれを上回る傾向が続くと、AWD 部門は赤字になっていくので、本部会計からの対応を考慮する必要が出てくる。このことは、歴史的には多くの AWD 発行者たちが直面した課題に、些か遅れて出遭うことになったところだと言えよう。

8J3M 活動報告 JI1VAH 天谷龍夫(茨城県)

日本医師アマチュア無線連盟による第29回日本医学会総会 2015 関西 の特別記念局 8J3M が3月15日から5月14日までの2ヶ月間運用されました。最終交信局数は、8719局で、日本のみならず海外にまで、日本医学会総会のイベントのアピールができたものと思います。この記念局 8J3M の運用には、JA3ASU 狭山先生、JH3AEF 東條先生の度重なる日本医学会総会事務局との交渉、近畿総合通信局とのやりとり、JA7AOM 及川先生による多くの書類の作成の末に実現することができました。医学会総会のソーシャルイベントとして日本医師アマチュア無線連盟による記念局運用が現実のものとなりました。当初希望していた6ヶ月間の運用許可はなりませんでした。コールサインは、8J3M というすばらしいものが許可されました。運用方法は、会場だけでの運用では、時間的にも制限が多く、8J3M/n という形で、会員各局が地元で運用できるスタイルをとりました。そのため、送信機は各局の所有する移動用の50W機をクラブ局のリグとしてすべて申請し、証票も受け、各地で常時運用が可能になりました。1月に入り、記念局運用の希望者募集が早朝のMDネットおよびメーリングリスト(ML)で流されました。無線従事者免許番号、所有

する移動用のリグの技適番号の申請が行われ、8J3M のオペレーターとして登録されました。当初の運用希望者は6名でしたが、その後、希望者も増え、また運用開始後にも追加があったため、最終的には、後記のメンバーによる運用になりました。QSLカードは、JA1KXT 相田先生により、日本医学会総会のロゴデザインの入ったすばらしいものが出来上がり、3月2日には近畿総合通信局より識別信号8J3Mの免許状が交付されました。証票も各局に配布され、3月15日を迎えることができました。その日以降は、8J3M/n が日本のあちらこちらで運用され、運用局のリアルタイム情報サイト J クラスタにも珍しいコールサインのためか、運用後すぐにUPされるようになりました。情報が素早く巡ることはいいことですが、同時に、8J3M/n が同時刻に違うエリアで運用されることへの疑問もネット上で散見されるようになりました。このことに関しては、JH3AEF が何度も、近畿総合通信局に確認済みのことで、違法性はないのですが、従来型のクラブ局運用が、登録されたリグを使いまわすというスタイルが一般的であったため、誤解をうけたようです。JP7FSO 高瀬先生がネットで情報を発信し、また、不要な誤解をうけないように、同時間に同一バンドでの運用は控えましょうというルールを作成しました。運用者は、運用開始時にバンド、モードをMLで申告し、終了時も連絡するようになりました。これにより同一バンドでの運用はなくなりました。8J3M というコールサインのためか、DX局から呼ばれることも多く、また、JH3AEF のようにDXねらいの運用もあり、海外への情報発信の必要性が生じました。そこで、QRZ.com に 8J3M のページを作ること

になりました。JP7FSO の尽力により、英文による本格的なサイトが出来上がり、8J3M のインフォメーションが全世界に発信されました。国際的なQRV情報サイトにも 8J3M のコールがUPされ、交信した世界中の多くの局が、QRZ.com のサイトを訪れ、日本医学会総会の情報が発信されました。各局のそれぞれの思いのある8J3Mの運用も5月14日23時59分をもって、2ヶ月間の幕を閉じました。

8J3M/n の最終交信局数は、	8719局
JA1KXT	205局
JF1SXY	228局
JI1VAH	1700局
JL1LRJ	210局
JA3ASU	100局
JH3AEF	369局
JH3TCC	659局
JF3JON	1285局
JF3MTM	472局
JO3RUL	631局
JA7AOM	216局
JP7FSO	1817局
JE9RWF	827局
	合計 8719局

交信できた国、地域は、**105エンティティ**

3B9(ロドリゲス島)	4L(グルジア)
4X(イスラエル)	5W(サモア)
5Z(ケニア)	9A(クロアチア)
9M2(西マレーシア)	9M6(東マレーシア)
9V(シンガポール)	A4(オマーン)
A6(UAE)	BV(台湾)
BY(中国)	C2(ナウル)
CE(チリ)	CN(モロッコ)
CO(キューバ)	CT(ポルトガル)
CX(ウルグアイ)	DJ(ドイツ)
DU(フィリピン)	E7(ボスニアヘルツェゴビナ)
EA(スペイン)	EA8(カナリア諸島)
EI(アイルランド)	ES(エストニア)
EU(ベラルーシ)	EX(キルギスタン)
F(フランス)	FK(ニューカレドニア)
FW(ウォリスフツナ)	G(イングランド)

GI(北アイルランド)	GW(ウェールズ)	UA2(カーニングラード)	UK(ウズベキスタン)
GM(スコットランド)	HA(ハンガリー)	UP(カザフスタン)	UT(ウクライナ)
HB(スイス)	HK(コロンビア)	V6(マイクロネシア)	V7(マーシャル諸島)
HL(韓国)	HP(パナマ)	V8(ブルネイ)	VE(カナダ)
HS(タイ)	I(イタリア)	VK(オーストラリア)	VK9(ロードハウ島)
JA(日本)	JD1(小笠原)	VR2(香港)	XE(メキシコ)
JD1(南鳥島)	JT(モンゴル)	XU(カンボジア)	YA(アフガニスタン)
JW(スバルバル諸島)	K(USA)	YB(インドネシア)	YL(ラトビア)
KH2(グアム)	KH6(ハワイ)	YN(ニカラグア)	YO(ルーマニア)
KH0(北マリアナ諸島)	KL7(アラスカ)	YT(セルビア)	YV(ベネズエラ)
LA(ノルウェー)	LU(アルゼンチン)	Z3(マケドニア)	ZC4(キプロス)
LX(ルクセンブルグ)	LY(リトアニア)	ZL(ニュージーランド)	ZP(パラグアイ)
LZ(ブルガリア)	MT0(マン島)	ZS(南アフリカ)	
OD(レバノン)	OE(オーストリア)		
OH(フィンランド)	OK(チェコ)	8J3Mの運用を終えて JH3AEF 東條純一(大阪府)	
OM(スロバキア)	ON(ベルギー)	今後開設されるであろう 8JnM の特別局を速やかに運用できるように、運用希望者の移動用のリグを JM1ZZM のリグとして予め登録していただき、8JnM の免許を受ける際にスムーズにリグの登録ができるようにするのが良いのではないかと。そうすれば JM1ZZM のアクティビティーも上がるであろう。理事会において担当者を決めていただけないだろうか。	
OZ(デンマーク)	PA(オランダ)		
PJ2(キュラソー)	PJ4(ボネール)		
PY(ブラジル)	S5(スロベニア)		
SM(スウェーデン)	SP(ポーランド)		
SV(ギリシア)	SU(エジプト)		
T7(サンマリノ)	T8(パラオ)		
TA(トルコ)	TI(コスタリカ)		
UA4(ロシア欧州部)	UA0(ロシアアジア部)		

平成27年度 会計報告 JL1BGP 井上文正

収入の部	予 算	決 算
前年度からの繰越金	1,723,319	1,723,319
郵便貯金	(1,720,877)	(1,720,877)
現金	(2,442)	(2,442)
会費収入	500,000	559,000
その他		
日本医学会からの補助金	400,000	400,000
利子	100	170
収入合計(A)	2,623,419	2,682,489

支出の部	予 算	決 算
MARSニュース	150,000	192,024
MARSアワード	30,000	23,280
ホームページ管理費	120,000	120,000
8J3M運用	0	26,100
総会助成金	100,000	100,000
日本医学会からの補助金	400,000	400,000
総会講演謝礼	0	200,000
事務員謝礼	60,000	60,000
JARL会費(3年分)	0	30,720
送料通信費	30,000	38,161
慶弔費	20,000	0
事務用品費	5,000	0
雑費	5,000	0
支出合計(B)	920,000	1,190,285
(A)-(B)=次年度繰越額	1,703,419	1,492,195
内訳 郵便貯金		1,482,068
現金		10,127

会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認の結果、会計は適正に運用されていることを確認しました。

平成28年4月23日 監事代理 会長 JA7AOM 及川 忠人

新入会員

JS2BBE 加藤 賢一 先生 名古屋市瑞穂区

JA7NME 黒田 直人 先生 福島県福島市

JO7XVL, KOEN, exVK4EEN, exA52ED

Kenneth E. Nollet 先生 福島県福島市

協議事項

平成28年度事業計画案 JA7AOM 及川忠人
承認

- 1) MD ネットの充実を図る
- 2) MARS News の充実を図る
- 3) MARS アワードを継続する
- 4) MARS Home Page の充実を図る
- 5) 災害時および局地災害時の MARS network の対応を検討する
- 6) MARS 新入会員入会の支援活動を推進する
- 7) 8J3M 日本医学会総会記念局およびクラブ局 JM1ZZM の運営を検討し、それらの活動を継続する
- 8) 福島原発および大災害の課題を学び、被災地支援の在り方を学び検討する
- 9) 地域におけるアマチュア無線ネットワークの在り方を検討する
- 10) その他

平成28年度～30年度 役員改選案
JA7AOM 及川忠人 承認

役職	コールサイン	氏名
名誉会長	JA1FF	国府田 守雄
名誉会長	JH3AEF	東條 純一
監事	JA1FF	国府田 守雄
監事	JH3GOB	稲見 修
会長	JA7AOM	及川 忠人
副会長	JL1BGP	井上 文正
副会長	JA1KXT	相田 信男
理事	J11VAH	天谷 龍夫
理事	JP1HIS	奈良 圭之助
理事	JA3ASU	狹山 信矩
理事	JH3TCC	家田 勝幸
理事	JF3JON	田中 憲児
理事	JF3MTM	柴田 敏弥
理事	JH6IBM	石井 文理
理事	JH7QFA	渡辺 孝志
理事	JH7OLB	岩動 孝
理事	JP7FSO	高瀬 信弥
理事	JH0LME	姉崎 静記

平成28年度予算案 JL1BGP 井上文正 承認

収入の部

繰越金	1,492,195
会費収入	500,000
その他(利子)	150
合計(A)	1,992,375

支出の部

MARSニュース	150,000
MARSアワード	30,000
ホームページ管理費	120,000
総会助成金	100,000
事務員謝礼	60,000
送料・通信費	30,000
慶弔費	20,000
事務用品費	5,000
雑費	5,000
合計(B)	520,000

(A) - (B) = 次年度への繰越金 1,472,375

特別講演 1 18:00~18:45

“From 9.11 to 3.11 and Beyond:
(Transfusion) Medicine and Amateur
Radio.”

福島県立医科大学

ふくしま国際医療科学センター

国際医療センター教授

JO7XVL Kenneth E. Nollet 先生

(abstract は資料3)



特別講演2 18:45~19:30 (資料4)

『福島レポート -現場救急医の視点から-』

福島県立医科大学

放射線災害医療学講座教授

長谷川有史 先生



懇親会 19:30~21:30

近況報告

食の安全 福島からのメッセージ

JA ふくしま未来 JA7PEM 鈴木秀雄 氏

MANAMI ミニコンサート



MANAMI

フラダンス ショー



エミ・バレエスクール

二次会 21:30~ 同ホテルにて歓談

エクスカージョン

4月23日(日)

07:45 ザ・セレクトン福島 発

09:30 相馬市伝承鎮魂祈念館

10:00 相馬市被災地復興状況視察

原釜・磯部 地区

11:45 なぎさの奏 夕鶴(昼食)

ランチオン・セミナー

『相馬市を襲った3.11の大津波 & 今後の私達(ハム)の取り組み』

JARL 相馬クラブ会長

JH7DUM 佐藤 不二夫 氏



16:00 飯舘村(全村避難地区)經由
JR 福島駅着

第40回MARS総会福島大会出席者

JA1KXT	相田 信男
JS1WMH (KXT XYL)	相田 洋子
JR1CDJ	大久保 嘉明
JR1CDJ XYL	大久保 方子
JR1SJD	井上 博
JR1SJD XYL	井上 裕子
JF1SXY	小方 冬樹
JI1VAH	天谷 龍夫
JK1AIN	中村 幸伸
JL1BGP	井上 文正
JL1XWR (BGP XYL)	井上 喜代
JH2QBQ	丸山 暢
JH2UDD	丸山 成子
JA3ASU	狹山 信矩
JR3RJY (ASU XYL)	狹山 陽子
JH3AEF	東條 純一
JH3TCC	家田 勝幸
JF3JON	田中 憲児
JF3MTM	柴田 敏弥
JM3FUW	中島 静一
JA7AOM	及川 忠人
JA7NME	黒田 直人

JA7WTH	中川 洋
JH7IIR	齊藤 和好
JH7QFA	渡辺 孝志
JR7CAD	安田 恒人
JP7DMV	姉齒 秀平
JP7FSO	高瀬 信弥
JH0LME	姉崎 静記
JR0NQU	山本 賢
JR0NQU XYL	山本 みちこ
特別講演講師	
JO7XVL	Kenneth E. Nollet
	長谷川 有史
NFDXG(Northern Fukushima DX Gang)メンバー	
JA7PL	芳賀 芳夫
JA7PEM	鈴木 秀雄
JH7ALG	高橋 良之
JH7BAY	佐藤 雄一
JM7OLW	松本 公輔
JR7CJS	鈴木 靖
JP7CZW	橋本 和樹
JARL相馬クラブ会長 ランチョンセミナー講師	
JH7DUM	佐藤 不二夫

資料1

MARS MD-net on 80m band (2015.4.1~2016.3.30)

0600~0630JST / 3.565 あるいは 3.562MHz

→それで避けられなければ、以後 3.568 から3KHz毎に up の方針
出れば全国 QSO がほぼ可能。是非ご参加を！

(しばしば開始 10~15 分前に KXT,VAH がラグチューー pse BK)

JA1KXT 相田 信男

date	stns	
2015/4/1	8	wid 8J3M/3(op.JF3JON)
2015/4/8	11	wid 8J3M/3(op.JF3JON)
2015/4/15	13	wid 8J3M/7(op.JA7AOM)
2015/4/22	11	wid 8J3M/1(op.JA1KXT)
2015/4/29	11	wid 8J3M/7(op.JA7AOM)
2015/5/6	9	wid 8J3M/1(op.JI1VAH)
2015/5/13	11	wid 8J3M/3(op.JH3AEF)
2015/5/20	11	
2015/5/27	9	3-7直接は無理(今後しばらく同様)
2015/6/3	8	QFA ひどい唸声(因みに、彼、Oto.), NG condx→KXT QRO
2015/6/10	11	JR1SJD:二か月ぶり
2015/6/17	10	vy QSB, GOB には KXT しか分からない
2015/6/24	12	JL1LRJ:久しぶり
2015/7/1	11	
2015/7/8	9	(雨が続いてうっとおしい)
2015/7/15	12	(3560 に AM で音楽流れる → 3565 にサイド)
2015/7/22	11	(かろうじて、一筆書きならず) JA6BMB:初参加
2015/7/29	12	
2015/8/5	8	
2015/8/12	9	JL1LRJ/0
2015/8/19	9	JL1LRJ/0
2015/8/26	9	久しぶりの一筆書き QSO (KXT::8.25. # 1HR ステッカー届)
2015/9/2	9	

2015/9/9	10	台風接近 空電↑
2015/9/16	9	全国大雨被害後
2015/9/23	8	JH0LME:1年ぶり
2015/9/30	12	
2015/10/7	13	J11VAH/0, (一筆書きのがす!)
2015/10/14	12	
2015/10/21	11	
2015/10/28	12	(40mNet は先週から 7150 に QSY)
2015/11/4	12	
2015/11/11	13	FB condx
2015/11/18	12	FB condx
2015/11/25	11	
2015/12/2	11	同一エリア内でスキップ現象
2015/12/9	11	wid QRN, KXT:-1.2℃, FSO:未明に零下
2015/12/16	14	bad condx ← AEF によると毎年この日は NG と
2015/12/23	10	NG condx でラウンドにならず
2015/12/30	9	3 エリアが NG
2016/1/6	13	FB ラウンド QSO!!!
2016/1/13	13	check in の順に回して FB ラウンド QSO, 0 エリア漸く雪
2016/1/20	12	2 日前に大雪, ローカルスキップ, vy QRNNN
2016/1/27	8	再びローカルスキップ, Condx vy NG!!!
2016/2/3	15	先週と打って変わって FB Condx
2016/2/10	13	芝刈り機の如き QRN /(AWD-huntGB に MARS 記事)
2016/2/17	10	上記同様のバタバタいう QRN
2016/2/24	9	(新潟の諸情報あり)
2016/3/2	12	(MARS 総会が話題に → 以後毎週)
2016/3/9	11	
2016/3/16	12	
2016/3/23	12	
2016/3/30	13	(各地から桜の便り, いよいよ総会@福島へ)

Members : JR1CDJ, JR1SJD, J11VAH, JL1LRJ, JH3AEF, JH3GOB, JF3JON, JF3MTM, JA6BMB, JA7AOM, JH7EQW, JH7QFA, JR7CAD, JP7FSO, JH0LME, JR0NQU, 8J3M/n & JA1KXT(MC)

資料2

MD-net 7M(40m)ロールコール

毎週 6:30~7:00 7.150MHz

2015.4.15~2016.4.20

参加局数 22局

MARS 7M キーステーション

JH7QFA (渡辺孝志)

今年は全くコンタクトできない回数が8回、全般的にお空は開けていなかったようです。

スキップの際何時も AEF, AOM さんに助けていただいております。秋頃からは JA6BMB さん、アンテナ等整備で強力、当局からはローカルスキップのエリアを何度もカバーしていただきました。また QBQ さん、EZJ さんにも多謝。

6時半前から待機でファーストコンタクトの QBQ さん FF さんにこれも多謝。

以前からのコンタクト周波数 7.062~7.065 付近はいつもの QRM でしたが AOM さん等のアドバイスで10月7日から拡張された周波数 7.150MHz 付近に QSY しました。6時30分からの時間帯、QRM も無く早くこの周波数に QSY すればとの声多数。

2015年3月からは 8J3M の記念局が ASU, AEF OM のお働きで MARS 各局大賑わいでした。

JP7FSO 高瀬先生 今年もモービルからのコンタクト、強力 FB でした。

今年はニューカマーの局長さんが少しずつでもネットに参加、これからもお空が賑やかになる事を期待しております。

局名	コンタクト回数
JA1FF	28
JA1KXT	2
JR1CDJ	26
JR1SJD	7
JL1LRJ	16
JI1VAH	40
JH2QBQ	36
JH3AEF	39
JH3GOB	36
JH3TCC	30
JF3JON	1
JA6BMB	14
JH6IBM	1
JR6EZJ	8
JA7AOM	38
JA7WTH	1
JH7EQW	1
JH7QFA	45
JR7CAD	35
JP7FSO	39
JH0LME	2
JR0NQU	19

資料3

特別講演1

"From 9.11 to 3.11 and Beyond: (Transfusion) Medicine and Amateur Radio."

福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター

国際医療センター教授 JO7XVL Kenneth E.Nollet

ABSTRACT:

Disasters can interrupt infrastructure, including telecommunications infrastructure, essential for modern healthcare. Blood transfusion, the most common medical procedure in United States hospitals, is especially dependent on telecommunications because blood may be collected, processed, tested, stored, and transfused in places that are widely separated from each other. Amateur Radio has proven its value as an emergency communications medium, and there is a long history of Amateur Radio stations being installed and maintained at Red Cross disaster response headquarters. Unfortunately, as the complexity of blood transfusion has increased, Red Cross blood centers around the world have become physically separated from the disaster response headquarters that host Amateur Radio facilities. Thus, transfusion medical specialists in modern times may be less familiar with Amateur

Radio and its potential as an emergency communications medium.

Healthcare professionals with Amateur Radio licenses, including members of the Japan Medical Amateur Radio Society, can (re)establish and strengthen the necessary connections between their own institutions, the blood center facilities on which they depend, and the Amateur Radio groups that are willing and able to practice in normal times, and serve in disasters.

This presentation includes examples from the United States of America, including 9.11, and from Japan, including 3.11. Fukushima Medical University, with new facilities near completion, will continue to be a focal point for all sorts of disaster response activities within the prefecture, and henceforth for radiation disasters anywhere in the world.

To fulfill these responsibilities, we must nurture a system of mutual support between the university and Amateur Radio volunteers.

資料4

特別講演2

福島レポート ―現場救急医の視点から―

福島県立医科大学

放射線災害医療学講座 教授 長谷川有史

I. 放射線災害に直面した地域救急医

2011年3月11日14:46に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0、死者・行方不明者2万4千超の未曾有の大災害であった。地震直後、福島第一原子力発電所の炉心には臨界を停止させるための制御棒が規定通り挿入され原子炉の核分裂反応は停止された。だが電柱倒壊により所内への外部電源供給が遮断された。続く津波が所内を襲い、ディーゼル発電機が水没、内部電源が喪失した。結果、発電所の全電源が喪失し炉心冷却機能が奪われた。核燃料の崩壊熱を冷やすことができなくなり、核燃料棒の外殻をなすジルコニウム金属が溶融した。結果、核燃料棒が溶融し、圧力容器底を貫いて炉心は損傷した。ジルコニウム溶解時の化学反応で産生された水素による水素爆発(核爆発ではないことに注意)が発生し、炉心を囲う格納容器が次々と損傷し、放射性物質が炉内から環境に拡散した。季節柄この時期は西風主体なのだが、3月15日未明に風が陸向き北西方向に変わった。この時の放射性物質を含む降雨・降雪が土壤汚染の一因となった。この土壤汚染という点で福島事故は過去のチェルノブイリ事故と類似している。一方、チェルノブイリ事故では134名が急性放射線症候群と呼ばれる臓器不全症状を来し、このうち28名が死亡している。福島事故では一人

としてそのような傷病者は発生していない。

「複合災害」は東日本大震災のキーワードの一つであろう。地震・津波による自然災害のみならず、原子力発電所が損傷して放射性物質が環境に拡散した。種々の事態が相補的に負のスパイラルを増長させ、日本国民一人一人がそれぞれの社会経済心理的な影響を受け、世界中で社会問題に発展した。災害発生後、時を経ずして発電所からの距離に応じて順次緊急避難指示が出された。病院が入院患者ごと避難するという事態をも経験した。この、放射線影響を避けるための緊急避難で約60人の介護保健福祉施設入所者が避難中ないしは直後に死亡した。この現実には私たち医療人に強烈な衝撃を与えた。被ばく医療(放射性物質の関与するあらゆる傷病に対応する医療を被ばく医療と仮に定義する)に関しては、事故前から発電所周辺に6つの初動対応施設が指定整備されていた。だが、そのうち4施設は避難指示または準備の為に、残る2施設も医療資源の流出等で、被ばく医療はもとより通常の医療すら十分に提供できない事態に陥った。我が国のDMATは優れた機動力を持つ急性期救護班であるが、放射性災害は想定外であった。そのため福島県からの一時退避を余儀なくされた。原子力災害現地対策本部(オフサイトセンター)はライフラインが途絶し通信機能が維持

できず、3月15日に福島県庁まで避難を余儀なくされた。上記は全て今回の災害の現実である。

福島医大病院は、福島第一原子力発電所から阿武隈山塊を隔てて58kmも離れた基幹災害拠点病院である。私は当時、救急外来の診療リーダーであったが、まさか被ばく医療に従事するとは思っていなかった。だが結果的には、病院での体表面スクリーニング検査(避難者の体表面に付着した放射性物質の表面汚染密度を計測すること)、緊急被ばく医療など、初めて経験する業務に携わった。当時の私どもを悩ませた事の原因は「放射線リスクの相場感」を持ち合わせていなかった事かもしれない。「GMサーベイメーターの計測値が100,000cpm」と言われても当時の私はぴんとこなかった。今でこそその値が「生体組織に何の変化も及ぼさない、防護のための基準値」と感覚的に理解できるが当初はわからなかった。知識・技術の乏しい中での業務は私にとっても病院にとっても大きな負荷となった。当時、多くの病院職員にとって冷静に業務に専念することは容易ではなかった。福島医大病院は医療存続の「危機」に直面した。

福島医大病院は、自然災害に関しては一定レベルの医療サービスを継続できたと考える。一方、放射線災害に関してはお世辞にも十分とはいえなかった。想定外・未経験の事象に対して、不明確な情報の中で限られた知識と技術のもとに、応急処置的に緊急被ばく医療が提供され、国内外の支援のおかげでかろうじて放射線災害医療が継続出来たというのが、当時の現実だろう。そのような私どもの意識を変えるきっかけになったのは、REMAT(緊急被ばく医療支援チーム)メンバーとして当院への医療

支援を担当された皆さま(長崎大学・広島大学)からの介入だった。彼らは私たちと寝食を共にして院内のニーズを抽出した。彼らによるクライシスコミュニケーション(直面する危機に対する介入)は、私ども現場の医療者が「共通認識図を描く」、「肝を据える」きっかけを提供してくれたように思う。危機に対する同様な現場対応は各地の被災施設でも行われていたのではと察する。本来このような危機に直面した集団に対する危機介入は、事前の国家計画下に提供されるのかと思っていた(筆者追記:日本には米国のFEMA(Federal Emergency Management Agency)のような組織がないため我が国にクライシスコミュニケーションの事前プランはないのだそうだ)。福島の危機に対するクライシスコミュニケーションに関しては、特定の個人のもつ危機感と行動力で、ひどく局地的に現場に提供されたというのが現実であった。結果的に福島医大病院の医療機能は「蘇生」した。その後、当院の放射線災害医療体制は徐々に構築整備され、今日までに13名の被ばく・汚染傷病に診療を行っている。

5月初旬になり、周りを見回す余裕が出て初めて「被災地消防の危機」気づいた。彼らは「危機対応者」で災害が発生するとそれに対応する任務を持つが、同時に彼らは「被災者」であった。彼らが真に支援を求めている時期はとうに過ぎていた。一時は組織の存続すら危ぶまれたという。自分の事で精一杯だったことに無力感を感じた。とはいえ、解決すべき課題は山積みである。当時は被災消防職員への放射線管理や心身サポートが皆無だった。そこであらたな保健・福祉・医療チームを病院内に半ば勝手に結成して、学内外協力者とともに彼らの健康サポートを開始した。一般検診・メンタルヘル

ス・放射線管理を行うこの活動は後に総務省消防庁や地域精神保健システムに引き継がれた。当時の思いを忘れないように、私は 2016 年 3 月 11 日に発行された双葉地方広域消防本部発行の「消防活動記録誌＝双葉消防の戦い＝」に「悔恨」という文章を投稿した。肝心な時に同胞に支援が出来なかった私が、現職を拝命する理由の一つがこの「悔恨」であることに偽りは無い。

ひたすら目の前に立ちはだかる課題と格闘して数ヶ月、ふと気づくと社会が異様な風潮に包まれていた。「福島の木材は燃やせない」「橋桁のコンクリートに福島の土は使えない」「福島の産物を持ち込むな」といった日々の報道を目の当たりにして、リスク認知の多様性に、ゼロリスクの幻想に、社会が翻弄されている気がして、もう世の中がどうにかなってしまうのではないかと危機感をもった。当時の思いを伝えねばとの一心で、日本医事新報に「放射線リスクの考え方-科学と哲学の狭間で-」という文章を投稿し、以後福島レポートの連載を開始した。外科医・救急医を生業にしてきた私にとって、日々の安定した生活が偶然の上に成り立っていること、望ましくないが容認できる程度のリスクと共存なしには暮らしてゆけない私たちの現実、を受け入れるのは比較的容易だった。このころから、社会の中でサイエンスとポリシーが混同されている現実を認識した。世の中には、影響の出る確率がサイエンスで証明されている値と、防護の指標として国民合意の下に社会がポリシーとして示す基準値という値があり、二つが混同されている。そして、「防護のポリシー」は本来社会(国民)が決めるはずなのに、個々の国民がそれに合意していない不思議な現実を認識した。これらは自分たちの社会に対する無

関心、利己心、想像力の欠如、無知識に由来して、科学だけでは解決できない、哲学的人文科学的な考え方を、いいかえれば国民の意識から転換ないしは涵養してゆくほか解決法はないのではないかとさえ考えるようになったⁱ⁾ⁱⁱ⁾。

クライシスに泣き、リスクに翻弄された。私がみたのは、原子力災害に対峙した時の自分自身の情けない姿であった。

II. 福島事故からうけたインパクト

基礎をわかりやすく伝えるためにあえて極言すれば、放射線による人体影響と防護対策は三つのカテゴリーに分類されるであろう。一つ目は 0.5~1Sv 以上の被ばく線量から起こりうる急性障害(これは主に DNA 損傷による細胞死が原因とされ確定的影響と呼ばれる)でこれは何が何でも回避せねばならない。二つ目は 100~500mSv 以上の線量から注意が必要な慢性期の障害(これは DNA 損傷を修復しきれずに起こる細胞奇形が原因とされ確率的影響と呼ばれる、その代表が発がんであろう)で、対策としては他の身体影響や社会的経済的損失とのバランスをとりながらなるべく回避するように行動する。三つ目は 100mSv 以下の領域で、いわば私たち皆が暮らす世界に該当する。低線量の放射線による人体影響があるのか無いのか、その良悪も含めて正直なところ不明確である(だからポリシーとして保守的立場に立ち、基準値を設けて防護を行う。それが無理なく達成できるのであれば無用無益な放射線被ばくや放射性物質による汚染は 1 μ Sv でも 1Bq でも容認しない意識をもつ)。

福島事故後に私たちが受けた放射線影響を、現在確認できるデータから、これまたあえて極言すれば、「放射線による直接の健康影響は

明らかではない(または見られていない)」。一方、「放射線からの直接影響では説明できない、(間接的)健康影響」が存在することが徐々に明らかにされている。

1) 放射線による直接の健康影響

原子力発電所の復旧作業にあたる作業員の皆様の被ばく線量は、東京電力株式会社や UNSCEAR という国際機関が公開している。それによると内部外部被ばく合わせて 100mSv を超えた方が 2013 年で全体の 0.2%、最も被ばくした方の線量が約 678mSv とされる。現在、発電所の中には 24 時間救急医が交代で勤務している。ここの集計からは、所内で発生する傷病全体の約半分は作業員の生活習慣等に起因し、他の半分が所内で発生する事故や怪我に起因する。このうち放射線被ばくによる傷病発生は未だ報告がない。チェルノブイリ事故で発生したような Acute Radiation Syndrome と呼ばれる臓器障害を患った作業員は一人もない。放射性物質が基準値以上に体表面等に付着(汚染)した傷病者数は極小でその発生も 2011 年 3 月に限られている。

公衆の受けた影響に関しては、WHO、UNSCEAR などの国際機関から報告されている。WHO はより保守的な、UNSCEAR はどちらかといえば現実的な推計をしている。強調すべきは、いずれの報告も不明確な部分は安全マージンをとって推計されていることと、あくまで推計であり不明確な部分が残されていることである。これらによると一般的に公衆の外部被ばくは不幸中の幸いにして低く抑えられており、内部被ばくは外部被ばくよりもうんと少ない。いかえれば、現在までに確定的影響は認められておらず、確率的影響も自然発生のベースラインレベルを超える事象は識別が難しい程度

の影響と推計されているⁱⁱⁱ。ただし、人の価値観は多様なので、レポート上の同じ数値を見ても読み手によってそれらから受ける感覚も様々かもしれない。

2) 放射線からの直接の影響では説明できない健康影響

作業員に関しては本日詳細を説明する時間が無い。一つだけあげるとすれば福島第一原発の作業員の心理的影響は他の原発作業員より明らかに大きい報告であろうか。

公衆の受けた「放射線からの直接の影響では説明できない健康影響」は複数報告されている。たとえば先にご紹介した、「緊急避難による介護保健福祉施設入居者約 60 人の死亡」はその一例と思う。彼らは確かに放射線からの健康影響を避けることが出来た。しかしその代償として死亡という最大の身体的ダメージを受けた。避難者を対象とした調査によると、転居先での死亡率は、転居前と比較して 2-3 倍に上昇し、死亡率高値が少なくとも半年は続いた。緊急の移動や転居は時に重大な身体影響を人間に与えるようだ。その後の調査でも、避難した方々の肥満・高血圧・糖尿病・高脂血症などが、避難しなかった方と比較して優位に上昇していることが報告されている。のみならず、彼らの精神ストレスは 9.11 の消防士さんと同程度の大きさだったとされる。さらには、地元産の食品はたとえ放射性物質濃度が基準値以下でも子供に食べさせたくないとする PTA が 2014 年で 3~4 割という報告、広島長崎原爆後でも見られなかった次世代影響が福島において将来出現すると考える人の割合が比較的多いという報告、などは客観的情報提示のみでは解決できない現実を表しているように思う。セルフスティグマとって、私たち自身が自身にスティ

グマ(いわれの無い負のレッテル)を課すことにつながらないかと専門家は危惧している。その他、地域年齢分布の高齢化、地元産食品が売れない現実、福島事故後に再開できない医療機関の数が多きこと、原発作業員のための医療機関受診までの所要時間が長い現実、などが報告されている。このように、放射線からの直接の影響では説明できない影響は身体にとどまらず、社会に経済に意識にまで影響を与えつつある。^{iv v}。

III. 私たちは福島事故から何を学んだのか？

東日本大震災前、私たちは「放射線災害」のみならず、「生活の中の身近なリスク」、ひいては突然の「危機」に対する「意識」が低かった。基本的な「知識」「技術」も不十分だった。いったん危機に直面すると、「不明確」「不確実」な状況で「未経験」の医療継続を余儀なくされた。そして「不確実」な現実は今後数十年社会の憂いであり続けるであろう。

このような経験から私たちが学ぶべきは、次の危機到来までに私たちにできることは何か？一つには、想定可能なリスクに対して可能な限り(社会的経済的に実現可能な無理のない範囲で)備えることかもしれない。身近なリスクに対する意識を細々とでもよいから灯し続けることかもしれない。具体的には、過去の歴史や経験からこのような機会を通して学ぶ、最低限度の基本的な知識や技術を維持する、その必要性を意識の中に留めることなのかもしれない。私たちはまた、過去の歴史や経験から十分に学び切れていないのかもしれない。

もちろん私たちが直面する課題は、放射線災害だけではない。いちいち細かいことを気に

していたらそれだけで一生が終わってしまう。多くのリスクを俯瞰して全体のバランスを取りながらリスクとともに暮らす、そんなバランス感覚も、私たちが学んだことかもしれない。

私の経験からいえることは、「災害や危機は私のような不勉強な医療者の下にも平等に降りかかる」ということだ。だとすると、私にも多く内在した「無知、無関心、利己心、想像力の欠如」といった、我々の社会性を阻む要素を徐々に取り払うことこそが、根底にある課題解決のための処方箋なのかもしれない。「国民の意識変革」などという大それた遠回りな対策のように聞こえるかもしれないが、根本的な危機対策の近道は、上記の如き「防護文化の涵養」なのではないかと感じている。それらは「言うは易く行うは難し」であるし、具体的に今何をどうしたら良いのかわからないが、「なせば成る 為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」の精神で、一人でも多くの国民が一秒でも長くこの意識を保ち続けられればよいなあと感じている。何故このタイミングなのかわからないが、福島での皆様との時間を思い起こして過去にどこかでだれかから聞いた言葉を思い出した。「人生は素晴らしい、だが短い。」

ⁱ http://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka_g16.html

ⁱⁱ 日本医事新報 No.4565, 32-33, 2011

ⁱⁱⁱ Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation. Sources, effects and risks of ionizing radiation. UNSCEAR 2013 report, Vol. I. Report to the General Assembly. Scientific annex A: Levels and effects of radiation exposure due to the nuclear accident after the 2011 great east-Japan earthquake and tsunami

^{iv} Clinical Oncology 28, 237-244, 2016

^v The Lancet, 316, 479-488, 2015

日本医師アマチュア無線連盟

第40回総会 福島大会を開催して

第40回総会 大会長 JP7FSO 高瀬 信弥

2016年4月23日、皆様のご尽力により無事第40回総会を福島で開催できたこと、本当に感謝いたします。

2015年日本医学会総会と同時に開催された第39回総会懇親会で、『次回は福島で』とのご指名をうけ、いろいろ考えてきました。やはり東日本大震災および原子力発電所事故による放射能汚染をメインテーマにしなが、その現実の中で生きる福島の人々が元気で頑張っているという印象を持っていただくことが最大のテーマであろうと思い企画しました。

総会自体は、新参者の私には分からないことが沢山あり、及川会長はじめ会員役員みなさんのご協力で行進していただきました。本当にありがとうございます。

その後の特別講演2題は『福島の現状を知る』ということを目的に企画し、災害におけるアマチュア無線コミュニケーション(EmCom)に造詣が深く、国際赤十字でHAMとして活躍された国際医療センター Kenneth E Nollet (JO7XVL; 新入会)先生と、放射線災害医療をなさっており福島の放射線災害をよく知っていらっしゃる長谷川有史先生(HAMライセンス取得予定)にお話しをいただきました(詳細は別項をご覧ください)。

さて、私の次のミッションは『元気な福島をみていただく』ことですので、懇親会からは怒濤のプログラムとなりました。JR1SJD局のDVDブ

レゼンテーション。地元福島の若い力MANAMIのミニコンサート。復興の象徴にもなった常磐ハワイアンセンターゆかりのフラダンスショー。食の安全を守るJAふくしま未来から、地元HAMのJA7PEM鈴木秀雄氏のプレゼンテーション。あつという間でした。

その後、ふけゆく福島の夜景を見ながらの2次会ではさらにリラックスしてお話していただいたことと思います。

大きな反省は、会員近況報告の時間がなくなってしまったことでした。これは非常に残念でした。せめて新入会会員の紹介だけでもあれば良かった。次回お願いいたします。

翌日は、甚大な津波被害を受けた相馬市へのイクスカーションです。実は、東京電力福島第一原発内へのツアーを前述した長谷川先生に企画していただくようお願いしていたのですが、土日は難しいとのことでした。少し怖いという感じを抱かせてしまうということは承知していたのですが、これが日本の現状であることは一科学者である医師には知っておいてほしかったのです。果たせず残念でした。しかし、相馬市ではJARL相馬クラブ会長佐藤不二夫(JH7DUM)氏にお願いして、相馬の現状を見ていただける企画にして頂いた上で、HAMが震災時に何ができるのかをお話して頂きました。帰りは、地元のいちごを食していただきながら、今なお全村避難中の飯舘村を通過して、

コンポスト(放射線洗浄で出た土などの保管袋)の山を見ていただきました。また、環境放射線測定の実験ポストも印象的だったと思います。

2日にわたり駆け足の総会とイクスカーションでした。ほんとうにお疲れになったと思います。しかし、参加していただいたみなさんが、見て感じた福島を全国でお話していただくのが最も重要であり、アマチュア無線を通じて福島の、日本の置かれた現状を皆で今後も注視していただければ目的は達せられます。

総会の直後、熊本で大震災が起きました。私も5月の連休に肺塞栓症・深部静脈血栓症発生予防に関して、地元の医療関係者にいろいろお教えする機会を得て馳せ参りました。異口同音に『起こると思っていなかった』と仰ってい

ました。そうだと思います。しかし、日本ではどこでも起こるのです。

その時、HAMである自分は何をするのか。考えるきっかけになる福島大会であったと信じています。

みなさん、本当にありがとうございました。

尚、大会運営に当たり、地元福島市近郊の Fukushima Northern DX Gang (NFDXG) メンバーみなさんの多大なご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

大会前に無料サイトで製作した総会ホームページは、一部修正して今も見ることができます。よろしかったら覗いてみて下さい。

<http://jp7fso.wixsite.com/mars40>

第41回 日本医師アマチュア無線連盟金沢総会のご案内

平成 29 年 4 月 22 日(土)～23 日(日) に、第 41 回 日本医師アマチュア無線連盟総会を金沢市において、開催いたします。多くの会員およびご家族のご参加をお待ちしております。

- 1 開催日 総会・懇親会 : 平成 29 年 4 月 22 日 (土曜日)
 エキスカーション : 平成 29 年 4 月 23 日 (日曜日)
- 2 宿泊場所ホテル: 金沢マンテンホテル駅前 朝食付き シングル 9500 円 ツイン 19000 円
 住所 : 石川県金沢市北安江 1-6-1 JR 金沢駅より徒歩約 5 分
 電話 : 076-265-0100 FAX : 076-265-0120
- 3 総会・懇親会 : 料亭 金城 楼 石川県金沢市橋場町 2-23 電話: 076-221-8188
- 4 受付 午後 4 時 より 金城機 ロビーにて
- 5 総会 午後 4 時 30 分 料亭 金城 楼 会議室
- 6 講演会 午後 5 時 30 分から
 演者 金沢医科大学 心血管カテーテル治療科兼循環器内科教授 北出 道彦 先生
 『冠動脈インターベンションに関する知見』
- 7 記念撮影 午後 6 時 講演会終了後
- 8 懇親会 午後 6 時から 約 2 時間半 料亭 金城楼
- 9 懇親会終了後 各自 タクシーにてホテルへ(移動料金は各自ご負担)
- 10 エキスカーション(4 月 23 日)午前 8 時 マンテンホテル玄関前集合
 貸切バス(ガイド付き)にて 兼六園 散策 東茶屋街 散策
- 11 昼食 : 東茶屋街にて。 2～3 時頃、貸切バスにて JR 金沢駅へ移動解散と致します。
- 12 費用(1)交通費(JR 並びに航空<小松空港>)は 各自お手配、各自ご負担
 (2)宿泊費は、ホテルカウンターにて、各自お支払下さい。
 (3)参加費(総会費、宴会費) 31,000 円 (35 人として計算。参加人数により変動します。)
 (4)エキスカーション費 12,000 円 (20 人 として計算。参加人数により変動します。)



金城楼

初登頂 150 周年・マッターホルンの朝焼け

JR1CDJ 大久保 嘉明(埼玉県)

はじめに

またまたアマチュア無線とは無関係のお話で恐縮です。

平成 27 年の夏休み、8 月 9 日念願のスイスにカミさんと出かけました。JTB ツアーで、ヨーロッパ 3 大名峰、ユングフラウ、マッターホルン、モンブランを見物しながらのハイキングとしゃれ込みました。いつも MD ネットで伺っている JA1FF 国府田先生の果敢なロッククライミングとは比べようありませんが・・・

出発前ネットで見た天気予報では連日雨か雷雨になっており、心配を抱えながらの出発でした。しかし幸いなことに、初日こそ曇り気味でしたが、ユングフラウとマッターホルンは天候に恵まれ、絶景を満喫できました。残念ながら最後のモンブランだけは雷雨に見舞われ、断念せざるを得ませんでした。

ユングフラウヨッホ (Jungfrauoch: Top of Europe)

8 月 11 日(火) 宿泊地のヴェンゲンからロープウェイでメンリッヒェンへ登り、ここからアイガー(3970m)・メンヒ(4107m)・ユングフラウ(4158m)の山々を眺めながら、クライネ・シャイデックまで約 1 時間半の下りハイキング(2230m→2061m)。歩き始めこそ曇り気味でしたが、そのうちアイガーが姿を現し、クライネ・シャイデックに近づくとつれて、メンヒ、ユングフラウも全貌を現しました。

クライネ・シャイデックからの眺めは、少し雲が掛かったり晴れたりしていましたが、左からアイガー・メンヒ・ユングフラウ世界遺産 3 山の

勇姿を眺めることができました。ユングフラウの右手前に目立つ雪のピラミッドはシルバーホーン。

小説「アイガー北壁」を著した新田次郎(1912～1980)の墓が、クライネ・シャイデック駅を見下ろす小高い丘にありました(写真 1)。



写真1

墓碑には「アルプスを愛した日本の作家／新田次郎／ここに眠る」とあり、遺言で分骨されたとのこと。

昼食を済ませた後、アイガーの土手っ腹を貫いて走る登山電車でヨーロッパ最高地点駅ユングフラウヨッホ(3454m)へ。標高が高くて気圧が低いはずなのに、幸い息切れは感じません。1275m のヴェンゲンに一泊したのと、2100m ほどの高度で 1 時間半のハイキングをしたお陰かもしれません。

それよりびっくりしたのは、この鉄道トンネルの歴史の古さです。終点ユングフラウまでトンネルが開通したのが 1912 年(明治 45 年)2 月 21 日。そしてユングフラウ駅がオープンしたのが同 1912 年(大正元年)8 月 1 日ということです。そんな昔に岩山掘削技術と電車が

あったとは・・・

スフィンクス展望台、アイスパレス(写真 2)、

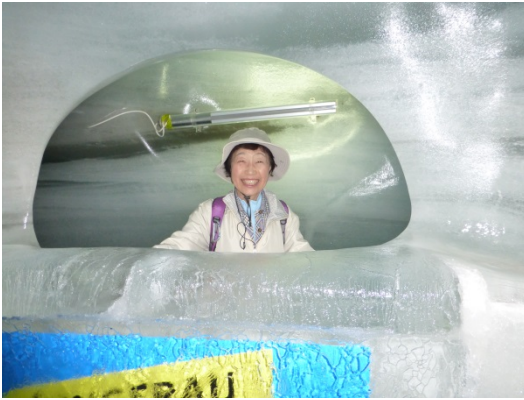


写真2

プラトーテラスと巡り、アレッチ氷河(写真 3)や、間近かにせまるユングフラウとシルバーホーンをバックに記念撮影。



写真3

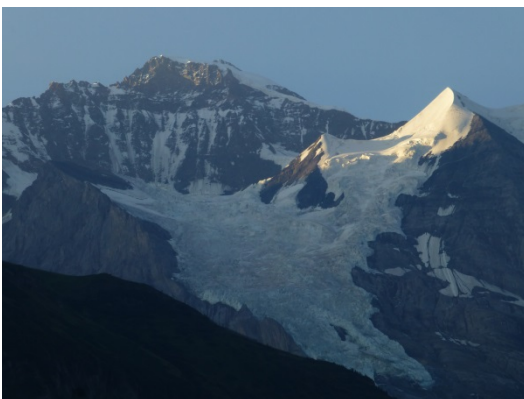


写真4

ウエンゲンに下山して、前日夜と登山当日の朝、雲に隠れて見えなかったユングフラウの勇姿を、移動日の朝ホテルの部屋から望見できたのも儲けものでした(写真 4)。

マッターホルン(Matterhorn)初登頂ルート点灯

8月12日(水)はウエンゲンを発って、バスで迫力の峠越えドライブ、次いで天井までパノラマ車両の氷河鉄道で3時間半、ツェルマット(3089m)へ移動。憧れのマッターホルンが町の彼方に見えました。

1865年、イギリス人登山家エドワード・ウィンパー卿がマッターホルンの初登頂に成功して、今年には150年目に当たる。ツェルマット駅前などに150年モニュメントが建てられ、記念行事として、夜になるとその登頂ルートに照明が点されるらしい。今回このことを知っていて旅行を計画した訳ではなく、全くの偶然です。

ツェルマットの町からマッターホルン(4478m)が見える絶好のポイントがあり、日本人が多く集まる橋があって、今では「日本人橋」と呼ばれているそうです。下見に行ったら、なるほどマッターホルンの雄大な美しい姿を望むことができました。

登頂ルートの点灯を見るため、薄暗くなるのを待ってそのポイントに出かけました。すでに大勢の観光客が詰めかけています。待つことしばし、午後9時マッターホルンの基部からポツリポツリ点灯が始まりました。照明が点るたびに観客の歓声が起こります。ルートに沿って点灯が上昇するにつれ、ついに山体は見えなくなり、数珠つなぎの照明だけになりました(写真5~7)。その照明も5分くらいで消灯。午後10時からもう一度点灯があるとのことで

したが、最初から真っ暗で当然山体は見えません。



写真5

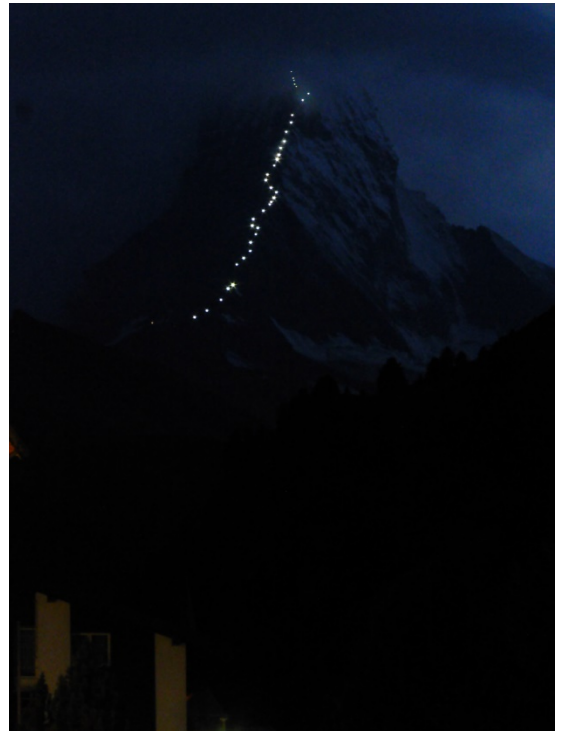


写真7



写真6

モルゲンロートのマッターホルン

一夜明けて8月13日(木)天気さえ良ければ朝焼けのマッターホルンに出会える。幸い晴天です。午前6時に例の観光ポイントへ。6時半頃が日の出です。今朝も多くの観光客が詰めかけています。

6時30分過ぎから山頂がピンクに染まり始

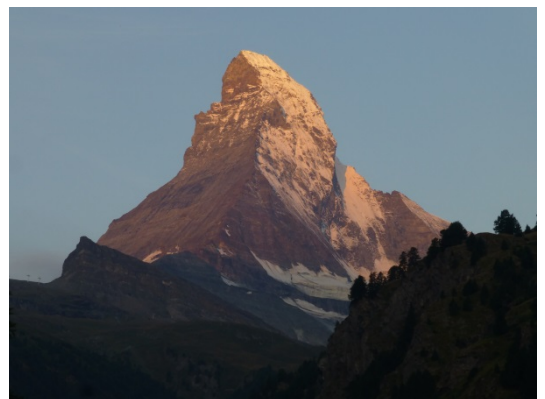


写真8

めました。ゆっくりと肩から基部に染まってきます。そしてマッターホルン全体が朝焼けに染まり(写真 8)、モルゲンロートはまさに圧巻。

今回の旅行では、マッターホルンだけは是非見てみたいと切望していました。お陰で目的は達成できました。そして初登頂ルート点灯というビッグなおまけ付き。

この後、登山電車でゴルナーグラート展望台(3089m)に登り、ツェルマットとはまた違った方角からのマッターホルン(写真 9)を堪能。

帰りは途中のローテンボーデン駅で下車して、小さな池に映る逆さマッターホルンや、一部雲を抱いた山体を遠望しながら 1 時間半ほどの、これもまた下り(2815m→2582m)の

リップエンベルクまでのハイキングを楽しみました。



写真9

ところで、できればもう一度行ってみたいけど、次は50年後のマッターホルン初登頂200周年の年にするか・・・

日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に39年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。(平成29年は4月22日に金沢市において開催予定)

2) 毎水曜日の朝、3.565MHz(06:00～06:30)及び 7.150MHz(06:30～07:00)付近でロールコール(MD ネット)を行っている。

3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を毎年発行している。

4) MARS 医学アワードおよび MARS 医学アワードIIを発行している。

5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) 日本医学会総会記念局(8JnM)を、医学会総会開催年に設置・運用している。

7) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>

(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11
井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、USBメモリーもしくは CD-R の郵送、または E-mail でお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿も OK ですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でも E-mail でも結構ですが、高画質画像をUSBメモリーまたは CD-R に保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただくことがありますので、ご了承ください。

編集後記

また東日本大震災の余震が発生し津波警報が発令されました。早朝から福島県や宮城県の皆様が避難されている様子がテレビで中継されました。エクスカーションでお世話になった相馬市に津波が到達したということで、離れたところにおいても自分が現場にいて一緒に避難しているような気持ちになりました。

転覆した船の映像が気になりましたが、皆様が機敏に避難して下さったことにより人的被害が出なくて何よりでした。

高瀬先生と福島総会をご準備いただいて素晴らしい余興で盛り上げて頂いたフラガールや歌手のMANAMIさん、また相馬市の皆様に思いを馳せております。第40回MARS総会福島大会でご準備にご尽力いただきました皆様方の心に残る素晴らしいおもてなしに感謝いたします。

では皆様、お空の上と、そして金沢でお会いしましょう。

新しく来る年が災害のない良い年でありますように！！

DE JF3JON

日本医師アマチュア無線連盟会報

(第76号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成28年12月20日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail info@nishioka.co.jp